

礼拝

令和7年5月26日
2号



正道館と八正道

～本校で学んで欲しいと～

新年度になって初めての定期考査が終わり、準備期間を含め、予定通りに取り組みはできたでしょうか。返却された答案用紙をじっくりと見て、振り返りをお願いします。

さて、五月二十五日は本校の創立記念日でした。二十四日には、学園関係の先生方や職員の方、本校に縁の深い方が瑠璃殿に参集して記念の式典を行いました。式後には、校祖獅子谷佛定（ししたにぶつじょう）上人と、本校創立に多大なるお力添えを頂いた坂根彌兵衛（さかねやへえ）翁のお墓参りに行き先徳をお偲びいたしました。

本校は一九〇四年に創立され、今年度で百二十一年目を迎えるわけですが、創立八十周年の際には、その記念事業として「正道館」が建設されました。正道館の名は、初代学園長三枝樹正道（みえきしようどう）先生のお名前と、仏教の基本的な実践項目である八正道に因んで命名されました。さて、この正道館にはどのような思いが込められているのでしょうか。

校門を入ってほぼ正面に見える正道館の北壁面を見上げると、蓮（はす）の花をあしらった装飾文字で作られた八正道のレリーフが掲げられています。八正道とは、仏教を学ぶ者にとっての、具体的に言う八つの項目のことで、お釈迦さまが最初にお説きになった内容の一つです。第二代学園長大橋俊有先生による解説プレートが、大島徹水先生像の後方にありますので、一度、読んでみていただくと八正道と正道館に対する思いがよく理解できると思います。

一・正見（しょうけん）：正しいものの見方
偏見や自己中心的な考え方をしないこと。

二・正思（しょうし）：正しいものの考え方
貪瞋痴（とんじんち）の三毒に惑わされず正しい決意を持つこと。

三・正語（しょうご）：正しいことば
嘘や悪口を言わないこと。

四・正業（しょうごう）：正しい行い
貪瞋痴の三毒を離れ正しい行いをすること。

五・正命（しょうめい）：正しい生活
世の中のためになる健全な生活を送ること。

六・正精進（しょうしんじん）：正しい努力
努力を怠らないこと。

七・正念（しょうねん）：正しい気遣い
心を安定させ、雑念を払うこと。

八・正定（しょうじょう）：正しい集中力
精神統一して心を安定させること。

八正道の一つ目「正見」は、他の七つの正道を正しく行うための根本になります。正見の実践には「見るものをありのままに見て真実を把握すること」「自分が正しいと思っていることは、案外『自分だけが絶対に正しい』と思い込んでいないだけで、周りの人からは認められない可能性に気づいていくこと」が大切なのです。つまり、常に自分の言動を振り返り、自己中心的な偏った見方をせず、平等な目で見ることができているかを良く見極めていくことが正見なのです。

八正道の実践はとても難しいことですが、それをいつも考えの中心に置くことで、「謙虚で誠実で親切な生活」が送れると思います。そのような願いが正道館に込められているのです。